

巨樹巨木シリーズ24 長野県-2

細田木材工業株式会社
顧問 細田 安治

長野県は流石に巨樹の国である。しかも歴史があり、地域に根付いた由緒ある巨樹の宝庫だ。また次々と現れる奇樹、変木との対面で様々な想像が創造を呼び、楽しく書き進めることができた。これも資料提供してくれているU氏の熱心な探索精神のお蔭様と感謝している。

今号ではオール「ケヤキ」で4本を取り上げた。

長野県の県木がケヤキならば本稿にうってつけだが調べてみると、長野県の県木はシラカバであった。ケヤキは木としての知名度も高く、県木として県を象徴するにはふさわしい木では、と筆者は思うが、因みにケヤキを県木とする県は宮城、福島、埼玉など数県がある。長野県が県木をシラカバとしたのは、白樺湖や志賀高原、蓼科高原などに、美しいシラカバの林があることからきているらしい。

尚、東京都はイチョウを都のシンボルとしている。これは、昭和41年の住民投票により、ケヤキ、ソメイヨシノを抜いて決まったとのこと。なるほどこれはうなずけることだ。

さて本論に入ろう。

写真番号-1・樹番号14 ^{ぜんざんじ}前山寺参道並木のケヤキ 樹齢350年、樹周6.75m、樹高20m 上田市大字前山字上神戸300 上田市指定天然記念物 信州の木100選

＜筆者のつぶやき＞

このケヤキのある前山寺は、弘法大師が開いたとされている。三重塔は「未完成の塔」とも呼ばれる完成していない塔だが、その姿は美しく、国の重要文化財に指定されている。

今では、マツ、ケヤキ、サクラなどの参道となっているが、その昔は大きなマツがたくさんあったことが残っている切り株からうかがえる。

このケヤキは、肩口から片腕を大きく広げ、相撲の力士の土俵入りを思い起させる力強さだ。この力士はあんこ型ではない。筋肉質の強靱な力がみなぎり、いかにも強そうな力士とみた。そこで思い起したのが、安治川親方、四股名はご存じ安美錦である。

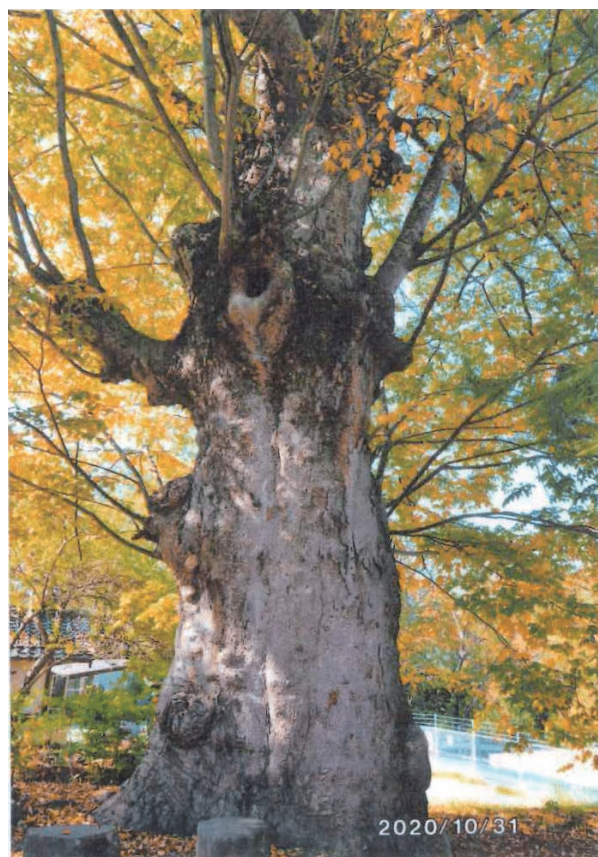


写真1 前山寺参道並木のケヤキ

先日、筆者の自宅の近くに新しくできた安治川部屋の稽古を見る機会があった。青森から16歳で伊勢ヶ濱部屋に入門し、強靱な体力と相撲のうまさで、末は横綱と言われていた逸材だったが、ケガに苦しみ、最高位は関脇止まりだった。この前山寺のケヤキは、横綱には届かなかったが実力ある安美錦の全盛時代を彷彿させる力強いケヤキである。

写真番号-2・樹番号16 ^{てんじんぐう}天神宮のケヤキ 樹齢1000年、樹周11.0m、樹高実測12m 上田市岩下81-5 上田市指定天然記念物

上田市教育委員会の案内板より抜粋・・・・・・・・
東西に並ぶ二本のケヤキの大木は、東側が樹高約12m、周囲10.8m、西側のそれが約13mと10.5mである。いずれも樹幹中心に落雷の跡が歴然としており中央部は空洞化し周りの樹皮が発達し生育している。(中略)この二本の大ケヤキは推定樹齢千数百年、市内でも最古の大木と考えられていることから貴重な存在である。

上田市マルチメディア情報センターのご案内より、この地域の伝説をご紹介します・・・・・・・・

この木に落ちた雷を村人が捕まえたところ、雷が「これからは岩下へは絶対に落ちない」と約束したので、天へ帰してやったという。また、「木の幹には爪でひっかいたようなささくれ」があり、それが「雷さんがあわてふためいて天へ上がったときの爪跡」とか、木の中ほどにある大きなこぶは「あれは雷さんのおへそだ」と言われている。

<筆者のつぶやき>

雷を捕まえ「二度と落ちない」と「謝らせ」、木のこぶを、雷の「おへそ」とし、しかも幹のささくれは、あわてふためき逃げ出す雷の爪痕とみるなど、頓智ある村人のおとぎ話・伝説はとても面白く想像をかきたてられた。

東西の両株とも落雷のあったことを物語る大きなうろ(空洞)と焼け跡があるが、焼け残った樹皮と辺材部分が成長し、見るからにたくましい生命力を感じさせるケヤキだ(落雷や焼けたのがいつのことか不明)。

写真番号 3 樹番号19 ^{あまおうじ}天皇子神社のケヤキ 樹齢300年以上、樹周8.4m、樹高21m 千曲市寂蒔1062

一見すると大枝がなく大きなウロがあり、なんとなく務めを終えたような、うらぶれた感が否めない。しかし、辺材部分は綺麗に腐っているも、木全体からは全盛期を見るような面影が残っている。また、歳を重ねているが、ケヤキ独特の絞りがきれいに残っており、往時を思わせる力強さもある。「どっこい

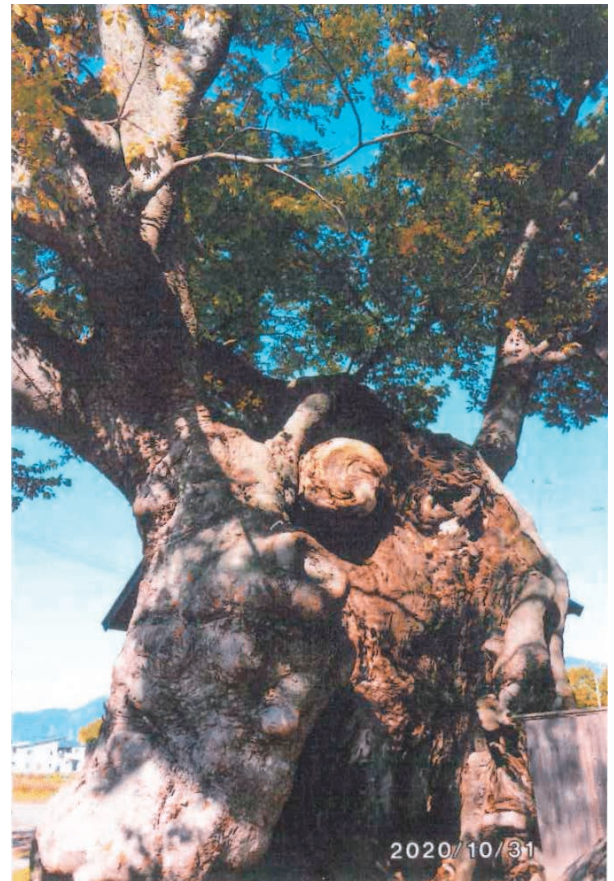


写真2 天神宮のケヤキ

まだまだ枯れじ」と言っているようだ。しかも緑の葉が上部を覆い美しくもある。どっしりと立ちはだかり、大きな存在感はあたりを睥睨している。

長野県はケヤキ大国であり、数多の有名なケヤキを有しているが、この木は総合的にみて最も素晴らしいケヤキと評価し、長野県一番のケヤキとみた。読者の皆様いかがでございましょうか。・

写真番号 4 樹番号21 ^{さいのもり} 斎森神社のケヤキ 樹齢200～300年、樹周8.02m、樹高16m 千曲市八幡大字上町3711

斎森神社には大きなケヤキが2本ある。写真のケヤキは神社に向かって右側にあるもので、斎森神社の御神木である。

このケヤキを一見で評価すれば、「^{ほうき} 箒ケヤキの王様」とみた。俗称、箒ケヤキは幹の途中から多くの枝が分かれて上部で広がる特徴をもつ木だ。この箒ケヤキをひっくり返して上下を逆さまにすると竹箒となる。製材工場、木工場などでおが屑や木工鉋屑(かんなくず)を掃除する竹箒、今も使われている便利な箒だ。

さて、このケヤキの巨木は、箒ケヤキの根元が発達し、大枝は無くなり、小枝のみが逆さま箒のように伸びたケヤキである。しかも胴体がしっかりしているのがこの木の特徴だ。幾重にも重なり地中から延びる根は、大きな幹を支え四方八方から、ケヤキの胴体を支えている。胴体から箒にたとえた小枝が大きく広がり、緑の葉を豊富に付けて木を守っている。

ところが、このケヤキの裏側に回ると大きな空洞(ウロ)がぽっかり空いているという。一見では見抜けなかったことだ。ひともまた同じではないか。ひともみな、一見ではわからない一面を持っていることを、このケヤキは教えてくれているようだ。

このように想像が次々膨らみ立ち木巡りもさらに楽しくなる。つづく



写真 3 天皇子神社のケヤキ

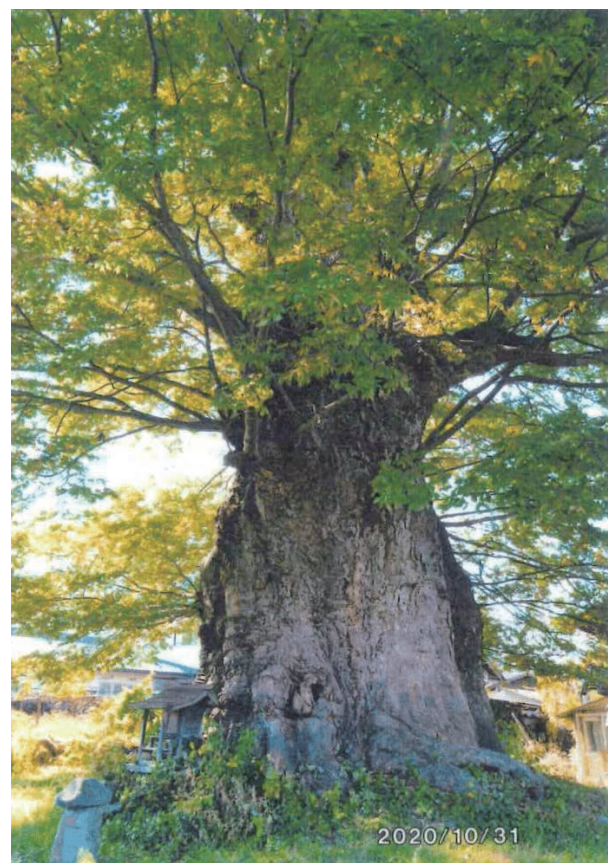


写真 4 斎森神社のケヤキ